

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2025
JUNE

No. 100

Sat. 7th June
Kawasaki Subscription Concert

No. 731

Sun. 8th June
Subscription Concert

No. 145

Sat. 21th June
Tokyo Opera City Series

6



Jonathan Nott, Music Director



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶 ◆ ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆ 上田 仁 ◆ 遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター	小林竜成 グレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻 順

会 長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創 依田 巽
専務理事	廣岡克隆
理 事	阿部武彦 辻 敏 池辺晋一郎 永山 治 伊藤美樹 夏野 剛 大橋 博 南部靖之 コシノジュンコ 福川伸次 菅谷貴子 増岡聡一郎 竹中平蔵 森 京子
監 事	寺西基之 渡邊芳樹
評議員長	金山茂人
最高顧問	
評議員	梅沢一彦 星 久人 鷺海量明 山添 茂 片山泰輔 芳野まい 加藤英輔
特別顧問	飯島延浩 草壁悟朗 福田紀彦

【ハーブ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins

○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
小山あずさ
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins

○清水泰明
○服部亜矢子
○加藤まな
○福留史純
河裾あずさ
鈴木浩司
辻田薫り
阿部真弓
坂井みどり

Violas

○青木篤子
○武生直子
○西村真紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西応典
鈴木まり奈

Cellos

☆伊藤文嗣
回笹沼 樹
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶行 ●
樋口泰世
福岡茉莉子
渡邊ゆかり

Double Basses

回助川 龍
○コーディ・ローズブーム
○北村一平
○久松ちづ
安田修平
渡邊淳子

Flutes

回相澤政宏
○竹山 愛

Flute & Piccolo

濱崎麻里子

Oboes

○荒 絵理子
○荒木良太
浦脇健太

Oboe & English horn

最上峰行

Clarinets

○エマニュエル・ヌヴー
○吉野亜希菜
近藤千花子

Bassoons

○福士マリ子
○福井 蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns

○上間善之
加藤智浩
白井有琳
藤田麻理絵 *

Trumpets

○澤田真人
○ローリーディラン
野沢岳史 ●
松山 明

Trombones

○大馬直人
○鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

○清水 太
○山村雄大
武山芳史
綱川淳美

Harp

渡辺沙羅 *

Librarians

林 知也
加藤幸子

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

栄誉団員

井伊 準 ◆

楽団長

廣岡克隆

編成局シニアディレクター

藤原 真

編成局パーソネルマネージャー

謝名元 民

楽団委員

北村一平 (議長)
多井千洋 (書記)
浦脇健太
鈴木浩司
福留史純
最上峰行

事務局長

辻 敏

事務局

■尾木貴雄
□高瀬 緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎 日向
小川博司
桐原美砂
長久保宏太郎
三橋真琴
山田道子
■梶川純子
藤山保子 *
山本未央子 *

名誉団友
深江泰輔 ◆
三木晴雄 ◆

団 友

天野佳和
新井 汎
安藤史子
池田 肇
石川晴依世
今村和弘
岩澤淳子
上原正二
上原規照
上原未莉
内田彬雄
内田乃例子
宇都 実
梅田 学
大隅雅人
大塚正昭
大塚展男
大和田浩明
大和田ルース
小川さえ子
萩野 昇
奥田昌史
音川健二
加藤谷直美
笠原勝二
甲藤さち
加藤信吾
金澤 茂
久保田一穂
齋谷仁士
黄原亮司
小林照雄
小林利彰
小林亮子
阪本正彦
佐川聖二
佐々木真

塩谷しずか
篠崎 隆
菅野明彦
杉浦直基
鈴木一輝
曾根敦子
高野成之
武田英昭
田中真輔
千村雅信
十亀正司
豊山 悟
永井聖乃
中塚和良
中塚博則
中山 智
新澤義美
西依哲子
西脇秀治
野村真澄
馬場隆弘
原田美保子
日野 奏
ペアンテ・
ボーマン
前田健一郎
松崎里絵
丸山正昭
三浦正信
宮原祐子
宮本直樹
宮本 睦
森みさ子
諸橋健久
渡辺 功
渡辺哲郎
渡辺裕子

☆ソロ首席奏者 回客演首席奏者 ○首席奏者 ○フォアシュビラー ●インスペクター

■本部長 □部長 ■シニアディレクター *研究員・準事務局員 ◆故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は、場内に響きますのでご遠慮下さい。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

6/7 SAT. 8 SUN.

川崎定期演奏会 第100回

2025年6月7日(土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.100

Sat. 7th June 2025, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

第731回 定期演奏会

2025年6月8日(日) 14:00 サントリーホール

Subscription Concert No.731

Sun. 8th June 2025, 14:00 Suntory Hall

ミケーレ・マリ奥特ティ [指揮]
 ハスミック・トロシヤン [ソプラノ]
 ダニエラ・バルチェッローナ [メゾソプラノ]
 マキシム・ミロノフ [テノール]
 マルコ・ミミカ [バス]
 東響コーラス [合唱]
 辻 裕久 [合唱指揮]
 グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Michele MARIOTTI, Conductor
 Hasmik TOROSYAN, Soprano
 Daniela BARCELLONA, Mezzo Soprano
 Maxim MIRONOV, Tenor
 Marko MIMICA, Bass
 Tokyo Symphony Chorus, Chorus
 TSUJI Hirohisa, Chorusmaster
 Gleb NIKITIN, Concertmaster

モーツァルト:交響曲 第25番
 ト短調 K.183 (24')

I.アレグロ・コン・ブリオ
 II.アンダンテ
 III.メヌエット
 IV.アレグロ

休憩(20')

ロッシーニ:スターバト・マーテル(61')

第1曲 導入	第6曲 四重唱
第2曲 アリア	第7曲 カヴァティーナ
第3曲 二重唱	第8曲 アリアと合唱
第4曲 アリア	第9曲 四重唱
第5曲 合唱とレチタティーヴォ	第10曲 終曲

MOZART: Symphony No. 25
 in G minor K.183 (24')

I. Allegro con brio
 II. Andante
 III. Menuetto
 IV. Allegro

Intermission(20')

ROSSINI: Stabat Mater (61')

第1曲 Introduzione	第6曲 Quartetto
第2曲 Aria	第7曲 Cavatina
第3曲 Duetto	第8曲 Aria e Coro
第4曲 Aria	第9曲 Quartetto
第5曲 Coro e Recitativo	第10曲 Finale

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/川崎市(6/7)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(6/7)、在日イタリア大使館、日本ロッシーニ協会
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール[川崎市文化財団グループ](6/7)

※当初出演を予定しておりましたメゾソプラノのヴァルドゥイ・アブラハミヤンは、ヨーロッパでのスケジュール変更により出演できなくなりました。
 代わって、ダニエラ・バルチェッローナが出演いたします。

楽曲解説はP.7をご覧ください

Ambasciata d'Italia
TokyoMUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

6/7 SAT. 8 SUN.



Michele MARIOTTI

Conductor

ミケーレ・
マリオッティ
[指揮]

イタリア・ペーザロ生まれ。2005年にサレルノでオペラ・デビューし、2008年にはボローニャ歌劇場の首席指揮者、その後音楽監督を務め、2011年には日本公演も行う。東京交響楽団には2023年6月定期・川崎定期に初登場、今回は2度目の共演となる。

スカラ座、NYメトロポリタン歌劇場、ロイヤル・オペラ・ハウス、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、サン・カルロ劇場、エクサン・プロヴァンス音楽祭のほか、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランス国立管、ミュンヘン響、RAI国立響、デンマーク国立響、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、オランダ放送フィルハーモニー管、ケルン・ギュルツェニヒ管、スカラ座フィルハーモニカ管、RTÉ国立響など主要なオペラハウスや音楽祭に出演。

2016年、イタリアの批評家賞であるプレミオ・アッビアーティ賞(最優秀指揮者賞)を受賞。

2022年11月より、ローマ歌劇場の音楽監督を務める。

Michele Mariotti is the Musical Director of the Teatro dell'Opera di Roma since 2022. Awarded the 36th Abbiati Prize as Best Orchestra Conductor, Michele is regularly invited by the main Italian and international theatres and festivals, including Milan's La Scala, the Paris Opéra, the Wiener Staatsoper, the Royal Opera House Covent Garden in London, the Bayerische Staatsoper in Munich, the Deutsche Oper in Berlin, the Salzburg Festival, the Metropolitan in New York and many more, he also works with renowned stage directors.

From 2008 he was Principal Conductor, and then Musical Director until 2018, of the Teatro Comunale di Bologna.

In the 2024/25 season, he is engaged in symphony concerts in Italy and Europe at the Teatro San Carlo, the Royal Concertgebouw, the LAC Lugano, the Maggio Musicale Fiorentino and on the podium of the SWR Symphonieorchester, the Filarmonica della Scala and the Haydn Orchestra with which he is planning a three-year project, and in operatic performances at the Rome Opera with Simon Boccanegra (season opening), Tosca, Suor Angelica and Luigi Dallapiccola's Il prigioniero (for the Trinità Ricomposto project), at the Caracalla Baths in Rome with Bernstein's West Side Story, at the Wiener Staatsoper with Norma.

Moreover, in 2025/26 season, he will conduct the twenty-third edition of the New Year's Concert 2026 at the Teatro la Fenice, Aida at the Paris Opera directed by Shirin Neshat and Luisa Miller in Vienna staged by Philipp Grigorian.

Hasmik TOROSYAN

Soprano

ハスミック・
トロシヤン

【ソプラノ】



アルメニア・エレバン生まれ。アルメニア共和国コンクール第1位をはじめ、国内外で数々の賞を受賞。

アルメニア国立オペラ・バレエ劇場の首席ソリストであり、レパートリーには「魔笛」の夜の女王、「ラ・ボエーム」のムゼッタとミミ、「愛の妙薬」のアディーナ、「椿姫」のヴィオレッタ、「リゴレット」のジルダなどがある。ボローニャ市立歌劇場など著名な劇場公演に出演し、ボストン交響楽団などとも共演。

Born in Yerevan, she is the recipient of numerous national and international awards, including First Prize and the Gold Medal at the Armenian Republic Competition "Gohar Gasparian".

Principal soloist of Armenian National Opera, her repertoire includes Idomeneo, The magic flute, La Bohème, Lucia di Lammermoor, L'elisir d'amore, Il viaggio a Reims, La Traviata, Rigoletto, La Sonnambula, Les pêcheurs de perles, La fille du régiment.

She appeared with Comunale Bologna, Filarmonico Verona, Teatro di San Carlo, Teatro Regio Torino, Teatro Massimo Palermo, Maggio Musicale Fiorentino, Opera Roma, Rossini Opera Festival, Hamburg Opera, Théâtre des Champs-Élysées, NNT Tokyo, Boston Symphony, Paris Philharmonic.

Daniela BARCELLONA

Mezzo Soprano

ダニエラ・
バルチェッローナ

【メゾソプラノ】



©Fabio Perenzen

イタリア・トリエステ生まれ。アレッサンドロ・ヴィテッロに師事し、音楽の研鑽を積んだ。数々の国際コンクールで優勝した後、1999年にペーザロのロッシーニ・オペラ音楽祭で「タンクレーディ」の主役でデビュー。以来、ズボン役の名手として確固たる地位を築き、世界屈指のオペラハウスで公演を重ねている。

「フランコ・アッピアーティ賞」などを含め、多くの受賞歴がある。

Daniela Barcellona, born in Trieste, completed her musical studies with Alessandro Vitiello. After winning numerous international competitions, she debuted as Tancredi at the Rossini Opera Festival in Pesaro in 1999, establishing herself as a reference interpreter for "en travesti" roles. She has performed on the world's most prestigious stages, and her awards include "Premio Abbiati", "Rossini d'Oro", "International Opera Award" and "Laurence Olivier Award". Her recordings include works by Scarlatti, Pergolesi, Rossini, Bellini, Meyerbeer and Berlioz, as well as Verdi's Requiem with C. Abbado and the Berliner Philharmoniker, and the award-winning complete recording of Semiramide released by Opera Rara.

Maxim MIRONOV

Tenor

マキシム・
ミロノフ

【テノール】



©Ksenya Ryzhkova

ロシア・トゥーラ生まれ。ドイツの著名な国際声楽コンクール「ノイエ・スティメン」で優勝し、キャリアをスタート。現在では、ベルカント・テノールの中でも屈指の名声を誇っている。

ウィーン国立歌劇場など世界各地の舞台で活躍し、ロッシーニ作品では、「セビリアの理髪師」のアルマヴィーヴァ伯爵をはじめとした著名な役を多く務めている。最近では、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場で開催されたロッシーニのスターバト・マーテルに出演し、話題を呼んだ。

Russian tenor Maxim Mironov started his career by winning the "Neue Stimmen" Competition in Germany. Since then he performs regularly in world leading theatres as Vienna State Opera, Teatro alla Scala, Opéra National Paris, Los Angeles Opera.

Known for his exceptional Rossini roles such as Count Almaviva in Il barbiere di Siviglia or Don Ramiro in La Cenerentola, his repertoire include also roles as Don Ottavio in Don Giovanni and Tonio in La fille du Régiment.

Recent highlights include Il barbiere di Siviglia at Teatro Regio di Parma, La sonnambula at Semperoper Dresden, Orphée et Eurydice at Salzburg Festival.

Marko MIMICA

Bass

マルコ・
ミミカ

【バス】



©Gemma_Escribano

クロアチア生まれ。マルコ・ミミカは、世界中の劇場で定期的に公演を行っている。

2023年以降はウィーン国立歌劇場で「ナブッコ」など、著名な作品に多く出演、最近ではバルセロナのリセウ大劇場で行われた「ランメルモールのルチア」のライモンド役や、ローマ歌劇場での「ラ・チェネレントラ」のアリドーロ役としても出演し、好評を博した。

今後の出演予定には、ベルリン・ドイツ・オペラでの「マクベス」、ビルパオでの「トリスタンとイゾルデ」、テアトロ・レージョ劇場での「ハムレット」などがある。

Croatian bass Marko Mimica regularly performs at major theaters around the world.

Recent seasons include appearances in Il turco in Italia at Teatro Colón Buenos Aires, Nabucco in Parma, Trieste and Wiener Staatsoper, Roméo et Juliette in Bilbao, Turandot and La Cenerentola at Liceu Barcelona and La Gioconda at Deutsche Oper Berlin.

Engagements in the 2024/25 season include Macbeth at the Deutsche Oper Berlin, Tristan und Isolde in Bilbao, Lucia di Lammermoor in Bologna, Hamlet in Turin, Simon Boccanegra at the Staatsoper Berlin.

6/7 SAT. 8 SUN.

TSUJI Hirohisa, Chorusmaster

辻 裕久 [合唱指揮]

東京藝術大学音楽学部声楽科卒、同大学院修了。1992年ローマミュージックファンデーション奨学生として英国王立音楽院留学、94年修了。同年ダイアナ妃後援「メサイア」ソリストとしてロンドン・ロイヤル・フェスティバルホールにデビュー。以来、英国を中心に欧州にて活動。フランシスコ・ヴィニャス国際声楽コンクール第3位並びに最優秀オラトリオ歌手賞、グレートエルム声楽賞受賞他。現在、東京藝術大学音楽学部、並びに東京大学教養学部非常勤講師。



Tokyo Symphony Chorus, Chorus

東響コーラス [合唱]

1987年9月、東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指導者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招き、公演ごとに出演者を決定するオーディションを行うことで常に演奏の質を高めている。歴代音楽監督の故秋山和慶、ユベール・スダーン、ジョナサン・ノットからの信頼も厚い。古典から現代音楽、また日本初演など幅広いレパートリーに対応している。他団体からの出演依頼も多く、近年では「ラ・フォル・ジュルネ」に出演、「長野の県民文化会館とウィーン楽友協会の提携40周年演奏会」に賛助出演し好評を得た。2020年にはアマチュア合唱団として初めて「ミュージック・ペンクラブ音楽賞 室内楽・合唱部門」を受賞。

メンバー表

●合唱指揮・発声指導：辻 裕久
稽古ピアニスト：古瀬安子
松岡なづさ
清水 綾

●委員長 岡 邦子 (Sop.)
●副委員長 鳥居順子 (Sop.)
奥貫壮史 (Ten.)
堀 浩史 (Bas.)

●パートリーダー
Sop. (正)遠藤由理 (副)佐藤由紀子
Alt. (正)水越睦美 (副)小林朋子
Ten. (正)内山誠彦 (副)枇杷高志
増淵 隆
Bas. (正)早川克己 (副)水野 敬

●コーラス委員
Sop. 増淵由佳、森田恵子、六井菜月
Alt. 小張さゆり、竹内あゆみ、鎗水みお
Ten. 大崎 純、田戸陽一、和田 敏
Bas. 篠田一朗、富岡 光、仲 恭令

Soprano

相田奈寿紀
石井 恵
石村友希子
伊藤貴子
岩元邦子
内野英子
遠藤由理
大貫由香
岡 邦子
小笠原美貴
奥泉亮子
小野寺美和
川崎仁美
草野真由美
佐藤かえで
佐藤深雪
佐藤由紀子
鳥崎尚美
鈴木信恵
瀬沼紀子
ソートンク美
武田美香

都築靖子
鳥居順子
東原なお
平川暢子
平田 菜
藤記富子
本行佳奈
増淵由佳
松本恵美
武藤弘美
森田恵子
森本由希
山下由美子
山田美生子
山之内文子
六井菜月
Alto
東 恭代
安藤有子
石渡範子
伊藤晴子
伊藤弥緒乃

上原ハルミ
大島裕美子
岡本いつか
尾崎いづみ
尾島夕里
尾田雅代
垣花亜妙子
加藤由美子
菊池万美子
木内道子
小林朋子
小張さゆり
齋藤由紀
坂元靖子
坂本タカ子
佐々木美登
佐藤理恵
須田真理子
関口あずみ
高田恵子
竹内あゆみ
田中美樹
谷野仁美

中島奏子
藤崎幸子
藤田 栄
藤盛美恵
堀西香織
水越睦美
山下裕美
山邊伸子
鎗水みお
吉井久美子
吉岡美佳子
吉村美恵子
和田真理
渡邊朋子
渡邊史恵
Tenor
有馬 猛
内山誠彦
大園健史
小川 徹
小川英樹
奥貫壮史

菅野広和
鈴木徹也
竹内邦夫
竹田 忍
谷川 啓
谷川俊一郎
佃 浩一
中原裕幸
名塩 優
西 宏隆
菱田明宏
枇杷高志
増淵 隆
水谷晴彦
和田 敏
Bass
浅香 勝
池上陽一郎
大足史郎
岡野一哉
河村太郎
菊池 靖

木内正則
倉沢正樹
河野 愛
杉山慎二
清水 達
竹内誠治
仲 恭令
西村 真
早川克己
平川尚義
水口敏也
水野 敬
村田高志
守谷隆一
矢野 通
山崎弘光

6/7 SAT. 8 SUN.

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756 ~ 1791)

交響曲 第25番 ト短調 K.183

冒頭から烈しい。拍節の位置をずらし、音楽に得も言われぬ緊張感や独特の推進性を授けるシンコペーションのリズムが鮮やかだ。疾走する弦の音色が私たちを魅了してやまない。いっぽう、オーボエとホルンも重要な役割を担う。ちなみに冒頭のドラマティックな調べは、1980年代の名画＜Amadeus＞から近年のSnow Man＜EMPIRE＞まで多くの場面、映像を彩ってきた。

緻密な構成もキーワードとなるこの交響曲は1773年秋に故郷ザルツブルクで書かれた。モーツァルトこのとき17歳。同年夏、モーツァルト父子は早3度目となるウィーン旅行を行なっている。そのウィーン音楽界では、1760年代後半から短調の交響曲への関心が高まりつつあった。

のちに文学の世界から広まるシュトゥルム・ウント・ドラング、直訳すると嵐と衝動。これは一般的には疾風怒濤と訳されるが、このシュトゥルム・ウント・ドラングの美学が、文学よりも前にウィーンの作曲家たちに共有されていたようなのだ。

ハイドン、ウィーン出身のディッターズドルフ、そしてボヘミア出身のヴァンハルといった1730年代生れの作曲家が、短調の交響曲、いわゆる疾風怒濤の美学に通じる作品を創っている。ハイドンは交響曲第39番ト短調と交響曲第44番ホ短調「悲しみ」、ヴァンハルは交響曲ト短調。

モーツァルトがこれらの作品を知っていたかどうかは別として、短調で交響曲や序曲を書くというウィーン古典派の新たなムーブメントが、交響曲第25番に何かを授けたとしても不思議ではない。

実際ハイドンとヴァンハルの「ト短調交響曲」がモデルになったという論考も出されている。強弱のくっきりとした対比や（奏でる音に制約があったがゆえの）ホルン4の筆致など、この3曲には共通項が多い。

疾風怒濤の美学ばかりでなく、滋味あふれる調べも舞う。第2楽章では弱音器を付けたヴァイオリンとファゴットの対話に魅了される。第3楽章のトリオ（中間部）を彩るオーボエ、ファゴット、ホルンのアンサンブルも絶妙だ。

奥田佳道 Text by OKUDA Yoshimichi

作曲：1773年10月5日（完成）

初演：不明

編成：オーボエ2、ファゴット2、ホルン4、弦5部

6/7 SAT. 8 SUN.

ジョアキーノ・ロッシーニ(1792～1868)

スターバト・マーテル

十字架に磔にされたイエスの傍らで嘆き悲しむ聖母マリアを主題とする宗教曲「スターバト・マーテル」は、「ウィリアム・テル[ギヨーム・テル]」(1829)を最後にオペラの筆を折ったロッシーニが1832年のスペイン旅行でマドリードの聖職者から依頼され、第1稿が作られた。半数の楽曲を協力者タドリーニに作曲させたロッシーニは、「演奏は1回だけ。総譜は写譜させず封印する」との条件を付けたが、後に楽譜が流出すると出版を禁じ、協力者の音楽を自分の新曲と差し替えて第2稿を完成した。初演は1842年1月7日パリのイタリア劇場で行われ、世俗的・官能的との批判も起きたが、詩人ゲーティエは「幸福感や微笑みに満ちたイタリアのカトリシズムの表れ」と擁護し、第9曲の四重唱に「天国の希望の歌声が聞こえ、神秘的なバラが金色と青色の空から降り注ぐように思われた」と称えている(同年1月17日付の新聞『ラ・プレス』)。

全10曲からなる音楽は色彩と変化に富む。第1曲導入曲はファゴットとチェロによる上向音階で始まり、弦楽器の16分音符に慟哭の表現が聴きとれる。第2曲は行進曲の伴奏で朗々と歌われるテノールのアリア、第3曲はホルン4本の牧歌的前奏をもつ繊細なハーモニーの女声二重唱である。第4曲は付点音符のリズムで決然と歌われるバス独唱のアリアで、長調に転じての伸びやかな旋律が魅力的。第5曲はバス独唱と混声合唱の応答で構成されたア・カペラの楽曲で、聖歌風の朗唱に巧みな変化を織り込む。リズムカルな伴奏の軽快な四重唱の第6曲を経て、情熱を秘めた第7曲メゾソプラノ独唱のカヴァティーナが歌われる。第8曲は金管楽器の強奏で最後の審判を暗示して始まるソプラノ独唱の劇的なアリアで、ハ短調からハ長調に転じた後半部で救済を嘆願する。ソリストの四重唱による無伴奏の第9曲は、半音階の下降旋律で象徴的に死を表す。第10曲フィナーレでは厳格な合唱フーガの後に導入曲の冒頭部を再帰させ、ダイナミックな終結部で興奮の度を高める。

水谷彰良 Text by MIZUTANI Akira

作曲: 1832年(第1稿)、1841年(第2稿)

初演(第2稿): 1842年1月7日パリ、イタリア劇場(サル・ヴァンタドゥール)、ジョヴァンニ・タドリーニ指揮

編成: フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部、独唱(ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バス)、混声合唱

ロッシーニ：スターバト・マーテル

[歌詞対訳] 訳:三ヶ尻正 Text by MIKAJIRI Tadashi

1.Introduzione

Stabat Mater dolorosa
juxta Crucem lacrymosa,
dum pendebat Filius.

2.Aria (Tenore)

Cujus animam gementem
contristatam et dolentem
pertransivit gladius.

O quam tristis et afflicta
fuit illa benedicta
Mater unigeniti!

Quae moerebat et dolebat
et tremebat cum videbat
Nati poenas inclyti.

3.Duetto (Soprano,Mezzo Soprano)

Quis est homo qui non fleret
Christi Matrem si videret
In tanto supplicio?

Quis non posset contristari
piam Matrem contemplari
dolentem cum Filio.

4.Aria (Basso)

Pro peccatis suae gentis
vidit Jesum in tormentis
et flagellis subditum.

第1曲 導入

悲しみの聖母は立っていた
御子が懸けられている
十字架のもとに。

第2曲 アリア (テノール)

嘆き、憂い、悲しむ
聖母の魂を
剣が貫き通した。

神のひとり子の
祝福された御母は
どれほど悲しみ、傷ついたことか。

愛に満ちた聖母は、わが子が
罰を受けるのを見て
悲しみ、苦しまれた。

第3曲 二重唱 (ソプラノ、メゾソプラノ)

キリストの御母が
これほど苦悶するのを見て
涙しない者があるだろうか？

恵み深き御母が
御子とともに苦しむのを見て
悲しまずにいられる者があるだろうか？

第4曲 アリア (バス)

自分の民の罪のために、
イエスが責められ、
鞭打たれるのを聖母は見た。

6/7 SAT. 8 SUN.

Vidit suum dulcem Natum
moriendo desolatum
dum emisit spiritum.

5. Coro e Recitativo (Basso)

Eja Mater fons amoris
me sentire vim doloris
fac ut tecum lugeam.

Fac ut ardeat cor meum
in amando Christum Deum,
ut sibi complaceam.

6. Quartetto (Soprano, Mezzo Soprano, Tenore, Basso)

Sancta Mater istud agas
Crucifigi fige plagas
cordi meo valide.

Tui nati vulnerati
tam dignati pro me pati,
poenas mecum divide.

Fac me vere tecum flere,
Crucifixo condolere,
donec ego vixero.

Juxta crucem tecum stare,
te libenter sociare
in planctu desidero.

Virgo virginum praeclara,
mihi jam non sis amara;
fac me tecum plangere.

7. Cavatina (Mezzo Soprano)

Fac ut portem Christi mortem,
passionis fac consortem
et plagas recolere.

いとしい御子が
死の苦しみに打ち棄てられ
息絶えるのを見た。

第5曲 合唱とレチタティーヴォ (バス)

さあ、聖母よ、愛の泉よ、私にも
あなたの悲しみのほどを感じさせ、
あなたと共に嘆かせて下さい。

私の心を
神なるキリストへの愛に燃えさせ
その御意に^{みこころ}^{かな}適うようにして下さい。

第6曲 四重唱 (ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バス)

聖なる母よ、こうして下さい。
十字架に釘付けにされたときの傷を
私の心にも深く印して下さい。

あなたの御子が、傷つけられ
私のために受けた苦難を
私にも分け与えて下さい。

あなたとともに真実の涙を流し、
私が生きているかぎり、
十字架に懸けられたイエスとともに
苦しみを味わわせて下さい。

私も十字架のもとに
あなたとともに立ち
あなたの嘆き悲しみに進んで交わろう。

処女たちの中でも卓越した処女よ
どうか私を^{しりぞ}却けず
ともに嘆かせて下さい。

第7曲 カヴァティーナ (メゾソプラノ)

私にキリストの死を負わせ
苦難とともに受けさせ
その傷を再び負わせて下さい。

Fac me plagis vulnerari,
cruce hac inebriari,
ob amorem Filii.

8. Aria (Soprano)e Coro

Inflammatum et accensus,
per Te, Virgo, sum defensus
in die iudicii.

Fac me Cruce custodiri,
morte Christi praemuniri,
conferri gratia.

9. Quartetto (Soprano, Mezzo Soprano, Tenore, Basso)

Quando corpus morietur,
fac ut animae donetur
paradisi gloria.

10. Finale

Amen, in sempiterna saecula.

私にも傷を負わせ
十字架の血に私を沈め
御子の愛にひた^{ひた}浸して下さい。

第8曲 アリア (ソプラノ) と合唱

聖なる処女よ、裁きの日に私が
地獄の火にくべられ、焼かれぬよう
私を守って下さい。

どうか私を十字架でかくまい
キリストの死によって守り
^{おんちやう} 恩寵^{あず}に与らせて下さい。

第9曲 四重唱 (ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バス)

たとえ肉体は死んで朽ちるとしても
魂には
楽園の栄光を授けて下さい。

第10曲 終曲

アーメン、世々限りなく。

6/21 SAT.

東京オペラシティシリーズ 第145回

2025年6月21日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.145

Sat. 21th June 2025, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

マリオ・ブルネロ [指揮&チェロ]
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]Mario BRUNELLO, Conductor & Cello
Gleb NIKITIN, Concertmasterヴァインベルグ：シンフォニエッタ
第2番 op.74 (21')I.アレグロ
II.アレグレット
III.アダージョ
IV.アンダンティーノWEINBERG : Sinfonietta
No.2 op.74 (21')I. Allegro
II. Allegretto
III. Adagio
IV. Andantinoハイドン：交響曲 第100番
ト長調 Hob.I:100「軍隊」(26')I.アダージョ-アレグロ
II.アレグレット
III.メヌエット、モデラート
IV.フィナーレ、プレストHAYDN : Symphony No. 100
in G major Hob.I:100 "Army" (26')I. Adagio - Allegro
II. Allegretto
III. Menuetto. Moderato
IV. Finale. Presto

休憩(20')

Intermission(20')

ヴァインベルグ：チェロと弦楽のための
コンチェルティーノ op.43 bis (30')I.アダージョ
II.モデラート・エスプレッシヴォ
III.アレグロ・ヴィヴァーチェ
IV.アダージョ(カデンツァ)-アダージョ(テンポ・プリモ)WEINBERG : Cello
Concerto op.43 bis (1948) (30')I. Adagio
II. Moderato espressivo
III. Allegro - Vivace
IV. Adagio(Cadenza)-Adagio(Tempo primo)シューマン(ショスタコーヴィチ編)：
チェロ協奏曲 イ短調 op.129 (20')I.アレグロ・ノン・トロッポ
II.レント
III.モルト・ヴィヴァーチェSCHUMANN (Arr. SHOSTAKOVICH) :
Cello Concerto in A minor op.129 (20')I. Nicht zu schnell (Allegro non troppo)
II. Langsam (Lento)
III. Sehr lebhaft (Molto vivace)

●主催／公益財団法人東京交響楽団

●助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

●後援／在日イタリア大使館

楽曲解説はP.14をご覧ください

Ambasciata d'Italia
Tokyo



©Gianni Rizzotti

Mario BRUNELLO

Conductor & Cello

マリオ・
ブルネロ

[指揮 & チェロ]

イタリアのチェロ奏者マリオ・ブルネロは、自由な表現で聴衆を魅了し、ソリストとして、室内楽奏者として、また、イタリアのアルテセラ音楽祭、並びにドロミテ音楽祭の制作・芸術監督を務めるなど、幅広い活動をしている。

1986年、国際チャイコフスキー・コンクールでイタリア人として初めて優勝。これを機に、ムーティ、小澤征爾、パッパノ、ゲルギエフ、シャイー、コープマン、チョン・ミョンフン、といった偉大な指揮者と共演し、ロンドン響、フィラデルフィア管、スカラ座フィルなど世界一流オーケストラから招かれている。室内楽奏者としても、クレメル、バシュメット、アルゲリッチ、ツィンマーマン、ファウスト、ポリーニなどと充実した演奏会を重ねている。

使用楽器は、1600年代初頭に製作された「マッジーニ」。一方で、近年は17～18世紀の作曲家たちに親しまれていた4本の弦を持つ「ヴィオロンチェロ・ピッコロ」の再発見を推進している。

録音も数多く、EGEAレーベルやドイツ・グラモフォンから多彩な作品をリリースしている。

Italian cellist Mario Brunello is a multifaceted and highly sought-after artist: a celebrated soloist, chamber musician, conductor, and pioneer of the cello piccolo. He made history as the first European to win the Tchaikovsky Competition in 1986. Brunello's authentic and passionate performances span a vast repertoire, seamlessly connecting early and contemporary music.

His exceptional talent has led to collaborations with renowned conductors like Pappano and Abbado, and engagements with leading orchestras worldwide, including the London Symphony and Filarmonica della Scala. A dedicated chamber musician, he also serves as the Artistic Director for the esteemed Arte Sella, I Suoni delle Dolomiti, and Stresa Festivals, showcasing his profound musicality and innovative spirit. He performs on a precious Maggini cello from the early 17th century and is a champion of the historically informed performance of Baroque music on the cello piccolo.

6/21 SAT.

ミェチスワフ(モイセイ)・ヴァインベルグ(1919～1996)

シンフォニエッタ 第2番 op.74

ポーランド出身で、ユダヤ人迫害から逃れるようにソ連へと移住して活躍した作曲家、ミェチスワフ(モイセイ)・ヴァインベルグ。26曲の交響曲、7作のオペラをはじめ、多くの大小の音楽作品を残した。新古典主義的な要素と、音色による斬新な効果、標題的要素、ショスタコーヴィチとの交友関係——、こうした様々なファクターが絡み合い、かつては忘れられた作曲家であった彼の作品が今日では日の目を見るようになり、度々演奏されている。

弦楽合奏とティンパニのためのシンフォニエッタ第2番は1960年の作品。第1番(1948年作曲)は「ユダヤの主題による」という愛称で知られているとおり、明らかに民族主義的色彩を強く有していた作品だった。それに対して本作は、新古典主義的な情感的抑制の効いた音楽性が特色となっている。

楽曲は四楽章構成。第一楽章(アレグロ)は厳かな主要主題で幕を開ける。楽器の掛け合いや三連符音型によって音楽はさらに緊迫感を増していき、そのままユニゾンによって締めくくられる。第二楽章(アレグレット)は軽やかなスケルツォ。半音階による冗談めかしたような旋律をヴァイオリンが提示し、それが楽器を変えながら繰り返されていく。緊迫感のある強奏によるトゥッティの序奏で始まる第三楽章(アダージョ)は、合奏の静かな和音伴奏に乗せて、まずはヴィオラ、その後チェロ、さらにはヴァイオリンへと、朗唱風の旋律が歌い継がれていく構成となっている。最終第四楽章(アンダンティーノ)の主題となっているのは、ポーランドの詩人トゥヴィムの詩によるヴァインベルグの歌曲集《記憶》作品62(1957～58作曲)第4曲〈思い起こさせるもの〉の旋律からの自己引用。「私には日当たりのいい道と／白い、素晴らしい家があった……」と始まる原曲では、在りし日の故郷への痛切なまでの思慕、ノスタルジーが歌われており、本作ではその旋律がそれに関係するイメージを「想起」させる。

山本明尚 Text by YAMAMOTO Akihisa

作曲：1960年

初演：1960年11月19日、モスクワ音楽院大ホール、モスクワ室内合奏団、ルドルフ・バルシャイ指揮

編成：ティンパニ、弦5部

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732～1809)

交響曲第100番 ト長調 Hob.I:100「軍隊」

付点音符や休符を交えた創意ある序奏に導かれ、主題が駆け出す。フルートと2本のオーボエの響きに胸ときめく。

アダージョからアレグロへ。古典派シンフォニーの型、流儀と言えはその通りだが、才人ハイドンはこのシンフォニー全体を通じ、音域やハーモニーの移ろい、ダイナミクス(強弱)、オーケストレーション(管弦楽法)に凝った。

キーワードは対比、愉悦だ。ハ長調の第2楽章とト長調の第4楽章に織り込まれた「軍隊」的な響きもさることながら、ユーモアのセンスに驚く。

長らくハンガリー系の貴族エステルハージ侯爵家に仕えたハイドンが、ドイツ人音楽家兼興行師ヨハン・ペーター・ザロモン(1745～1815)の招きに応じロンドンに渡ったことはよく知られている。最初が1791年から92年にかけて、次が1794年から95年にかけて。1780年代中葉以降、ハイドンの作品はパリ、ロンドンでも人気があったのだ。

そのロンドンで大がかりなシリーズ・コンサートを主催していたザロモンが、動く。ザロモンは、エステルハージ侯爵家での職務(肩書だけは残っていた)を終えウィーンに帰ってきたハイドンに声をかけたのである。

熟達の境地にあったハイドンは、2度のロンドン滞在で都合12曲の交響曲を書く。第93番から第98番、第99番から第104番は逸品揃いで、後半6曲のうち第102番を除く5曲にはクラリネットが入っている。

交響曲第100番の偶数楽章では、大太鼓、シンバル、トライアングルがトルコ／ハンガリー風の響きを轟(とどろ)かせる。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの時代、これらの打楽器は異国趣味の象徴だった。木管楽器も主役を演じる第2楽章の終盤に添えられたトランペットのファンファーレ、それにティンパニの用法にも驚く。ティンパニは構えの大きな第1楽章、休符の効果に思わず微笑む第4楽章でもさりげなく見せ場を創る。

奥田佳道 Text by OKUDA Yoshimichi

作曲:1793～94年

初演:1794年3月31日ロンドン、ザ・ハノーヴァー・スクエア・ルームズ(クイーンズ・コンサート・ルームズ)

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦5部

6/21 SAT.

ミェチスワフ(モイセイ)・ヴァインベルグ(1919～1996)

チェロと弦楽のためのコンチェルティーノ op.43 bis

本作は1948年8月4～8日という短期間に、別荘で書き上げられた。その一ヶ月前には作品42のヴァイオリンのための、やはりコンチェルティーノが作曲されており、ヴァインベルグにとってはこの形式に関心を持っていた時期と言えるかもしれない。作曲後の試演会では高い評価を受けた本作だったが、生前には公開演奏会の機会はなく、2010年代後半から演奏されるようになった。なお、ヴァインベルグはこの曲をベースとして大管弦楽と独奏という編成に再作曲を行い、1956年に《チェロ協奏曲》作品43として発表した(こちらはロストロポーヴィチによって1964年に初演されている)。

全体は切れ目なく続けて演奏される。第一楽章(アダージョ)——弦五部による和音による歌唱的で悲しげな旋律が紡がれる。短調の和音がほの明るい短三和音へと引き継がれる形で、第二楽章(モデラート・エスプレッシヴィオ)が導かれる。やや活発で動きのある独奏チェロの旋律を伴奏が支える主要部に始まるが、皮肉っぽい半音階の音型が繰り返される中間部が楽章全体を律動感で包み込んでいく。第三楽章(アレグロ・ヴィヴァーチェ)は力強い三拍子の民族舞曲調の音楽。弦楽合奏と独奏チェロとが掛け合うように各々に旋律を投げ交わしていく。第四楽章(アダージョ、テンポ・プリモ)は独奏チェロのカデンツァから始まる。前楽章の闊達な雰囲気を経分残しながら、少しずつ音楽は静まり、「初めのテンポで」と指示された箇所では弱音器付きの弦楽合奏がおずおずと加わる。冒頭の悲しげな旋律が再び奏でられ、音楽は消えゆくように終わる。

山本明尚 Text by YAMAMOTO Akihisa

作曲:1948年

初演:2017年2月18日、ポリショイ劇場ベートーヴェン・ホール、ポリショイ劇場室内合奏団、ミハイール・ツィーンマン指揮、ビョートル・コンドラシン独奏

編成:独奏チェロ、弦5部

ロベルト・シューマン(1810～1856)

シューマン(ショスタコーヴィチ編):チェロ協奏曲 イ短調 op.129

シューマンのチェロ協奏曲は1850年10月10～24日に書かれた作品で、彼の創作史の中では最後期の作品と言える。残念ながら彼の生前には演奏されなかったが、デュッセルドルフに移った彼の、交響曲第3番、第4番(校訂版)と並ぶ代表作だ。ただし、本日演奏されるのは一風変わったバージョン。ソ連を代表する作曲家、ドミートリイ・ショスタコーヴィチによる編曲版(1963年)である。

ショスタコーヴィチは、若きロストロポーヴィチ(1927～2007)の依頼に応じて本作の編曲にとりかかった。13番の交響曲を完成させた後、しばらく創作の筆を止めていた彼は、ムソルグスキーの《死の歌と踊り》など、他作曲家の編曲に並行して取り組んでおり、シューマンの編曲も1963年の7月に完成させ、自身の作品125として発表した。新たな番号が与えられるだけあって、ショスタコーヴィチの編曲は大胆かつ細部にわたり、ピッコロ、ハープ、さらにはホルンをもう二本追加して管弦楽の音色を増強し、音色を重視してある旋律を演奏する楽器を変更し、音楽に彩りを加える音型を追加し、細部のアーティキュレーションにまで気が配られている。こうして110年余の隔たりを経て、シューマンの音楽に新たな色彩が与えられたわけである。

全三楽章構成で、続けて演奏される。第一楽章(速すぎず)はソナタ形式。チェロによって提示される主題は歌唱的だが、同時に幅広い音型によるもので、器楽作品としての特色と技法が見事に融合している。第二楽章(ゆっくりと)は短い緩徐楽章。ハープが加わり、原曲で独奏チェロの主旋律に答えていたチェロに代わってファゴットが採用されており、音楽に幻想的な雰囲気と深みを増している。第一楽章の音型がところどころに見え隠れし、全曲に統一感をもたらす。チェロのパッセージに導かれて緊張感を持って幕を開ける第三楽章(非常に急速に)は、管弦楽と独奏の掛け合いによる主題。ショスタコーヴィチの編曲により、音楽は歯切れを増しており、それまでの楽章の甘美なロマンチックさと好対比をなしている。

山本明尚 Text by YAMAMOTO Akihisa

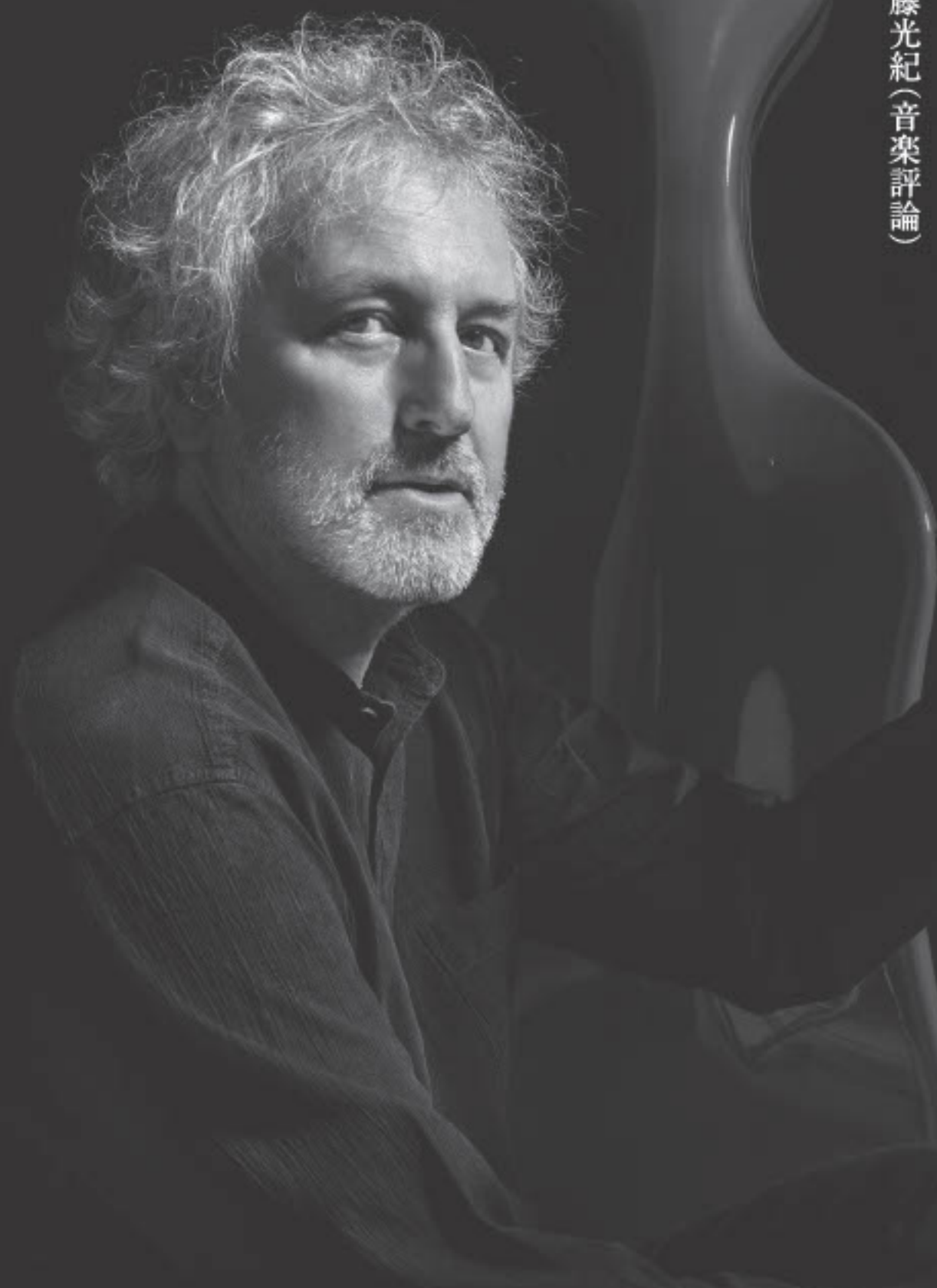
作曲:1850年(ショスタコーヴィチ編、1963年)

初演:1860年4月23日、オルデンブルク、ルートヴィヒ・エーベルト独奏。(ショスタコーヴィチ編:1963年10月5日、モスクワ音楽院大ホール、国立交響楽団、ボリス・ハーイキン指揮、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ独奏)

編成:独奏チェロ、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、ハープ、弦5部

インテイメートな音楽を シンフォニックスに

江藤光紀(音楽評論)



マリオ・ブルネロは1986年、国際チャイコフスキー・コンクールにイタリア人として初優勝してから、世界屈指のチェリストとしてソロ、室内楽と常に一線で活躍してきた。彼の奏でるチェロは当たりが柔らかく、音色には艶消したような深みがある。メロディーはよくしなりながら歌い、人肌のぬくもりを帯びている。楽器は17世紀初頭に製作された「マッジーニ」。自在な弓捌きから生まれる楽器と一体化するかのとき流れに、筆者は熟

成されたウイスキーのような琥珀色をイメージする。

加えて近年は4本弦のヴィオロンチェロ・ピッコロにもチャレンジしており、17~18世紀に使われていたこの楽器による「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」(J.S.バッハ)をはじめとする種々の録音も話題を呼んでいる。40年に及ぶキャリアを経て円熟の境地にあるブルネロは、同時に古楽から現代までを自在に飛翔する豊か

な想像力で、新しい領域・新しい可能性を絶えず探っているのだ。

また指揮者としての活動歴も長く、とりわけ1994年に設立されたオーケストラ・ダルキ・イタリアーナとは長期に渡る関係を築いてきた。興味深いことにブルネロは特に誰かについて指揮を学んだというわけではない。はじめのうちはオケと一緒に演奏していたが、自分のやりたい音楽のイメージを、チェロを置いてメンバーに身振り手振りで説明しているうちに、それが自然と指揮活動に発展したと言う。

2002～04年にはパドヴァの歌劇場の音楽監督も務めているが、そうしたポストには演奏面以外にもプログラミングなどのアイデアや実務の力も求められる。その幅広い知見や企画力・実行力は、現在はイタリアのアルテセラ音楽祭、制作・芸術監督を務めるドロミテ音楽祭などにも生かされている。ブルネロの全人的な魅力はこうしたキャリアからもうかがえよう。

日本とのつながりもひとかたならぬものがある。1987年の夏以来、ソリストとして頻繁に来日するだけでなく、とりわけ紀尾井ホール室内管弦楽団(旧・紀尾井シンフォニエッタ東京)とは2001年の初共演後、指揮者としても定期的に共演しツアーを率いるなど深い関係を築いており、すでに実演で馴染んでいる人も多いことだろう。

今回の東京交響楽団への出演は、ソロ・指揮の両面を生かした弾き振りとなるが、プログラミングにもブルネロらしい企画力が表れている。ユダヤ系でソ連時代に辛酸をなめたヴァインベルグは彼がシンパシーを寄せている作曲家で、重苦しさの中に諧謔・皮肉が漂う作風は同時代を生きたショスタコーヴィチと通じるものがある。その創作からよ

り抜かれたのは、弦楽合奏曲「シンフォニエッタ第2番」と「チェロと弦楽のためのコンチェルティーノ」(弾き振り)の2曲。

ハイドンではシンフォニーの古典にどうアプローチするかが注目だ。交響曲第100番「軍隊」はトランペットに加えてトライアングル、シンバル、バスドラムといった打楽器がにぎやかに打ち鳴らされトルコの軍楽隊を想起させる。プログラムの最後を飾るのはシューマン「チェロ協奏曲」のショスタコーヴィチ編曲版(弾き振り)。オリジナル版に対しモダンなオーケストレーションに特徴があるが、ヴァインベルグと共鳴させる意図もあるかもしれない。ハイドンのチョイスが「軍隊」であることを併せると、一見多彩な選曲の裏に、圧政や戦争といった現代の時代相へのメッセージが暗示されている可能性もあろう。

実はブルネロは昨年、水戸室内管で同様のプログラムで弾き振りを披露したが、奏者出身という背景もあってか、オーケストラを統率しようとするのではなくモチヴェートしていくタイプのリードで、音楽がよく弾み活力にあふれ、奏者たちが伸びやかに演奏していたのが印象的だった。

これまでのブルネロの指揮活動は室内管弦楽団のような比較的小さなサイズのオーケストラを主戦場として、自身がチェロで表現するインティメートな音楽をオケと共有するスタイルがメインだったように思う。今回の客演が興味深いのは、相手が通常編成のオーケストラということだ。コミュニケーションの密度を保ちながら、拡大されたオーケストラをどうシンフォニックにドライブするのか、透明感のある東響サウンドがブルネロのチェロとどう共鳴し、どんな色に染められるのか。そのあたりが注目点になるだろう。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N. Ikegami

ご芳名（敬称略）

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

＊新会員の方です。ありがとうございました（5月20日現在、五十音順）。

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらくホールディングス
株式会社ティー・ワイ・リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人渡邊芳樹事務所

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社



ご芳名 (敬称略)

個人会員

サークル50

伊藤 晴美 清水 尚彦
伊藤 美樹 山口 積恵
沖田 陽子 山口 知子☆
鷺海 量明 山口 学
木暮 紀子 匿名 4 名
澤田 秀雄 ☆名誉バトロン

サークル25

荒木 陽子 後藤 実
石川 晴依世 塚 和彦
猪田 隆文 戸川 二郎
井上 孝昭 長瀬 雅則
岡野 一哉 平山 智史
加藤 英輔 山本 誠一郎
匿名 3 名

サークル10

天野 佳和 高家 正行
五十嵐 建平 田口 忍
井澤 菜緒子 田中 建一
井上 千恵子 谷川 啓
岩田 新彦 藤 明雄
内山 誠彦 麻衣 清
梅沢 秀和 角田 隆・直子
遠藤 明幹 中澤 守正
大城 明子 中村 豊
大崎 肇 成瀬 倉祥
太田 純子 西谷 公男
大塚 具幸 橋本 純一
大類 浩 原田 美保子
岡 邦子 アーネスト M. 比嘉
尾崎 茂子 平川 尚義・楊子
小野 久子 枇杷 久人
片山 泰輔 星 久人
片山 千栄 増岡 聡一郎
金山 尚弘 眞野 美千代
金田 好生 三浦 麻子
木賀 賢市 水越 睦美
菊池 光剛 満田 高久
木内 正則・道子 三橋 祐太
小林 光 森 京子
古丸 健 森口 健
近藤 喜夫 森口 優子
斎藤 脩司 森下 国彦
佐々木 利勝 八鐵 昭彦
佐野 幹雄 山上 典雄
清水 恭一 山口 重雄
白井 美貴子 山本 明子
高澤 光官 吉井 美恵子
高田 麻子 米岡 修一
高野 幸一 匿名 13 名
高畠 琢己

フレンズ5

東 恭代 高藤 比呂志
有江 純子 西基之男
石原 祥子 中島 信男
潮田 伊織 長谷川 泰弘
大川 朋彦 早川 利郎
大野 紀子 松信 正志
奥 和彦 村松 秀幸
加藤 政晴 山口 聡
河野 愛彦 山田 修造
小林 義彦 山本 喜良
佐藤 信一郎 吉田 哲四郎
塩澤 誠司 渡邊 純一
匿名 2 名

フレンズ3

秋山 真一郎 関根 三善
明田 重樹 高石 祐次
荒 洋一 竹内 あゆみ
有坂 卓志 田中 美貴子
石澤 聖恵 田山 智広
井上 聡 都築 崇明
井上 正明 中村 元嗣
岩崎 純 中村 幸雄
大津 透 永井 洋一
大塚 啓司 長瀬 利明
大塚 展男 浪川 淳子
大槌 昌資 成田 清美
小川 康恭 西田 悦子
奥瀬 篤 根本 尚弘
奥田 桂子 根本 直之
小澤 俊文 野島 暢明
尾島 夕里 早川 秀太郎
小田切 明子 林 美奈子
皆瀬 修一 春川 京子
加藤 由美子 福田 昭夫
兼子 伸彦 藤田 栄
菊池 綾 藤田 淑子
菊池 伸治 藤野 盾臣
北川 洋 星 直樹
木下 盛弘 堀江 智巳
久保田 一穂 松下 一彦
小木曾 孝 三橋 正典
古杉 美智子 村田 由希
小林 明美 森山 健治
佐久間 悦子 安江 仁孝
佐藤 健司 山田 敏義
清水 良枝 山之内 英明
新保 和浩 鏡水 みお
杉田 弘也 横尾 順
鈴木 いく子 美紗恵
須田 眞理子

渡辺 敦郎
和田 真理

匿名 33 名

フレンズ1

■あ 磯 浩 大嶋 孝義
相磯 眞 眞道 正 初彦
青木 寛 述子 康彦
青野 節恵 大島 裕美子
赤崎 淳志 大島 賀久
秋元 大士子 大塚 英司
秋本 文男 大友 由香
朝倉 郁夫 大畑 喜信
浅里 めぐみ 大畑 慶裕
安達 幸子 大森 悦子
足立 幸子 大森 幸吉
穴水 浩子 岡田 節子
阿部 靖彦 岡田 正道
阿部 百合子 岡田 政嗣
阿部 祥一 岡田 美穂
新生 裕一 岡野 明徳
池田 利昭 岡村 兵衛
石井 誠子 小川 幾子
石川 由紀 沖 知子
磯村 幸一郎 奥秋 和歌子
井手 泰宏 奥泉 亮子
伊藤 勉 奥田 由美子
伊藤 晴子 奥貫 壮史
伊藤 宗功 奥村 克彦
伊藤 力雄 ヒロ・エル
稲葉 順一 ミヒヤエル
井上 康子 尾崎 正美
猪瀬 正聡 小名 雅恵
今井 聡 小野 信也
今井 邦男 小野 英樹
今井 知子 小野 美和
今村 裕子 小野塚 純二
岩澤 淳子 ■か 幸士
岩瀬 順子 甲斐 慶子
岩野 裕一 海藤 見和雄
上田 洋子 方波 伸一
白居 正昭 葛城 憲司
内川 眞名子 加藤 洋子
内田 誠さゆり 加藤 里加子
宇野 正芳 加藤 裕基
梅里 千枝子 狩野 善行
瓜生 祐子 川口 安子
江藤 剛 菅野 上裕美子
大越 貴志子 菅野 広和
北村 眞雅子
木下 亮平

東京交響楽団サポート会員



With TSO

響楽団サポート会員



©N.Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ち申し上げております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル 会員	フレンズ5	フレンズ会員 フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 ^{*1}	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 ^{*2}	○	○	○	○	○

^{*1} 一部対象外もございます。^{*2} 東京交響楽団の主催公演およびミュージアム川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{*1}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{*2}

^{*1}但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

NEWS & TOPICS

楽団人事

2025年6月10日付 田尻 順 TAJIRI Jun [コンサートマスター]

1994年に入団し、31年にわたり活躍いたしました。再雇用契約にて、引き続きコンサートマスターとして活動いたします。



©N.kogami

正団員

2025年6月1日付 渡邊ゆかり WATANABE Yukari [チェロ奏者]

東京音楽大学卒業、桐朋オーケストラ・アカデミー、NHK交響楽団アカデミー修了。
2017年カールフレッシュアカデミーに参加、W.ベッチャー氏に師事し、ディプロマ所得、奨学金授与。これまでにチェロをドミトリー・フェイギン、毛利伯郎の各氏に師事。



新入団

2025年6月1日付 藤山保子 FUJIYAMA Yasuko [事務局]

NEXT PROGRAM

7/19 川崎定期演奏会 第101回
(土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール
21^{月祝} 第732回 定期演奏会
14:00 サントリーホール

：指揮：ジョナサン・ノット
：ソプラノ：ガリーナ・チェプラコワ
：テノール：ロバート・ルイス
：バリトン：マティアス・ウインクラー
：合唱：東響コーラス／合唱指揮：富平恭平
：児童合唱：東京少年少女合唱隊／
：児童合唱指揮：長谷川久恵
：ブリテン：戦争レクイエム(字幕付き)

[7/19]S¥13,500 A¥10,500 B¥8,500 C¥6,500
[7/21]S¥14,000 A¥10,000 B¥9,000 C¥7,000

TOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511 (平日10:00~18:00 / 土日祝休)



©T.hidaki



©JeanLouisFernandez



©Gisela Schenker

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ

新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ60都市85公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取り組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。



The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine. Der Rosenkavalier in Concert Style (2024) concluded the finale of R. Strauss project with a great acclaim. They won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 80 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
[TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION]
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

Symphony

Symphony 2025年(令和7年)6月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミューザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト